

クワコナカイガラムシ及びニセナシサビダニの休眠期防除法

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

クワコナカイガラムシ（以下、クワコナ）及びニセナシサビダニ（以下、サビダニ）の防除法として、発芽前（3月中旬）の薬剤散布により発生初期の密度を低減する手法がある。しかし、剪定等の栽培管理の遅れや山間部での残雪の影響により、発芽前に防除を実施できない事例がある。また、散布薬剤として「マシン油乳剤（商品名：ハーベストオイル）」が広く使用されているが、その他の薬剤についての検討事例は少ない。そこで、本害虫に対して未検討である「プロチオホス水和剤（商品名：トクチオン水和剤）」、「水和硫黄剤（商品名：コロナフロアブル）」の発芽前又は落葉期（11月下旬頃）の散布の防除効果を検討した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) クワコナの休眠期対策にプロチオホス水和剤800倍、サビダニの休眠期対策に水和硫黄剤500倍は活用できる。
- 2) クワコナに対しプロチオホス水和剤の落葉期散布の効果は高い。また、サビダニ初期被害の軽減には水和硫黄剤の落葉期散布の効果がある。
- 3) 試験薬剤の薬害は認められなかった。

2 試験成果の概要

- (1) 2019～2020年に、品種‘ゴールド二十世紀’を用い、クワコナ越冬卵に対する防除効果及びサビダニ初期被害（モザイク症状）の軽減効果を検討した。
- (2) 薬剤はプロチオホス水和剤及び水和硫黄剤、対象としてマシン油乳剤を用い、散布時期は、発芽前（3月中旬）又は落葉期（11月下旬）とした。
- (3) クワコナ越冬卵に対し、プロチオホス水和剤の効果は対象薬剤と比べて同等～優る効果を示した。また、落葉期の防除効果は発芽前と同等であった（図1）。
- (4) サビダニ初期被害に対し、水和硫黄剤の効果は対象薬剤と比べて同等～優る効果を示した。また、落葉期の防除効果は発芽前と比べてやや劣った（図2）。
- (5) 試験期間を通して、試験薬剤の散布による薬害は認められなかった。

3 利用上の留意点

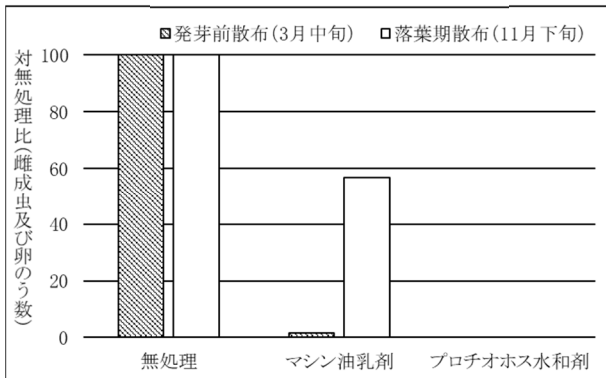
- (1) 水和硫黄剤（商品名：コロナフロアブル）及びプロチオホス水和剤（商品名：トクチオン水和剤）の農薬登録は表1を参照。

4 試験担当者

〔 環境研究室 研究員 古井 佑樹 〕
〔 環境研究室 室長 中田 健* 〕

* 現 農業振興監経営支援課 農業普及推進室 病虫害担当専技

2019年度調査結果



2020年度調査結果

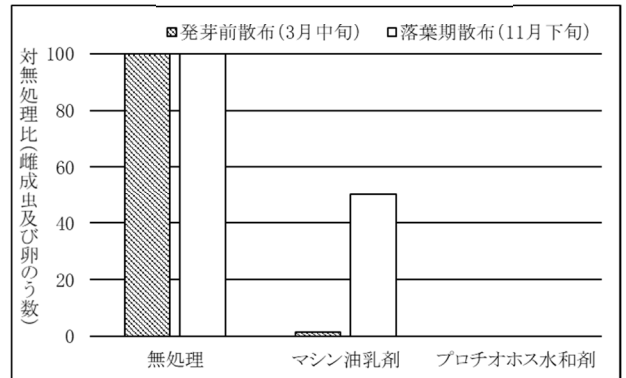
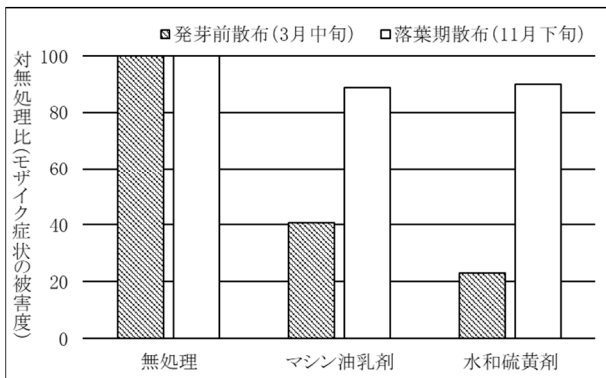


図1 クワコナに対する防除効果

2019～2020年に、品種‘ゴールド二十世紀’を用い、クワコナ越冬卵に対する防除効果を検討した。3月中旬又は11月下旬に薬剤を散布し、6月下旬にクワコナの雌成虫及び卵のう数を調査した。左図は2019年度の調査結果、右図は2020年度の調査結果を示す。対無処理比=無処理を100とした場合の各種薬剤における雌成虫及び卵のう数の比率

2019年度調査結果



2020年度調査結果

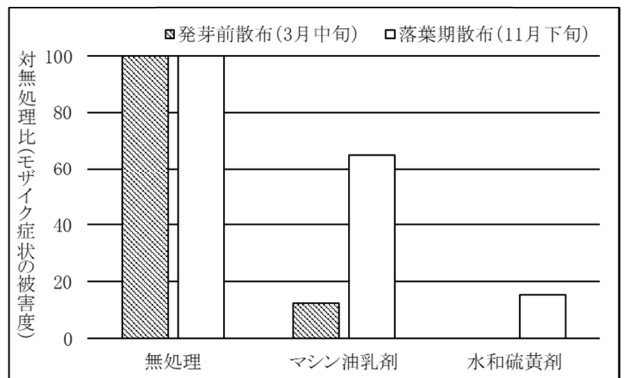


図2 サビダニに対する防除効果

2019～2020年に、品種‘ゴールド二十世紀’を用い、サビダニ初期被害(モザイク症状)の軽減効果を検討した。3月中旬又は11月下旬に薬剤を散布し、6月上旬に新梢全葉をモザイク症状の被害程度別に調査した。左図は2019年度の調査結果、右図は2020年度の調査結果を示す。対無処理比=無処理を100とした場合の各種薬剤における被害度の比率

表1 水和硫黄剤、プロチオホス水和剤の農薬登録^a

作物名	種類名(商品名)	適用病害虫名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数
日本なし	水和硫黄剤 (コロナフロアブル)	ニセナシサビダニ	500倍	—	—
なし	プロチオホス水和剤 (トクチオン水和剤)	コナカイガラムシ類、ハマキムシ類	800倍	収穫60日前まで	5回以内

^a2022年1月末現在